

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年2月27日

【評価実施概要】

事業所番号	1272800226
法人名	株式会社 エクセシオール・ジャパン
事業所名	グループホームいきいきの家鴨川
所在地	千葉県鴨川市古畑317-1 (電 話) 04-7099-9121
評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	2008/2/21

【情報提供票より】(平成20年2月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年10月1日				
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人	
職員数	19 人	常勤	19人, 非常勤	0人, 常勤換算	19人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	有(円) 〇無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(384,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/ 無
食材料費	朝食 300 円 夕食 500 円 または1日当たり 円	昼食 400 円 おやつ 100 円	

(4) 利用者の概要(1月16日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.2 歳	最低 66 歳	最高 95 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	亀田総合病院・鴨川市立国保病院・エビハラ病院
---------	------------------------

株式会社日本ビジネスシステム

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に囲まれたのどかな環境の中に「グループホームいきいきの家鴨川」がある。眺めもよくゆったりくつろげる雰囲気施設の施設である。また、施設内はバリアフリーとなっており、採光もよく広々として居心地のよい空間づくりがなされている。ウッドデッキや和室スペースもあり、有効活用されている。居室の入口には写真入の表札があり、誰でもわかるように配慮されている。敷地内にある畑では季節の野菜などが植栽されており、入居者と職員が協同で栽培と収穫を行い、楽しみを共有している。自由な時間を安全に過ごすことを主眼に職員育成に努め快適な生活を提供している。また、明るい雰囲気づくりを大切にしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価においては特に指摘事項はなかったが、広報誌を定期的に発行し地域の施設理解に努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価票については管理者が作成しており、他の職員への周知はなされていない。しかし、前回までの評価結果については周知されており、評価の意義を理解していると共に、業務に対する気付きを大切にしている。今後の評価結果を活かして更なるサービスの質の向上につなげたいと考えている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域の関係者を構成員として2か月に1回運営推進会議を行っており、施設の現況報告や活動報告等を行い、施設理解の促進を図っている。また、積極的に意見交換を行いサービスの質の向上に努めている。その他、市の地域包括支援センターと連携を図り、施設運営に関する相談を行っていると共に、研修を依頼・実施している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情・相談窓口を設置していると共に、面会時に直接要望等を確認している。苦情はほとんどないが、意見・要望に対しては職員全員で検討し、概要・内容・今後の対応を文書にまとめて家族に報告している。運営推進会議開催と同時に家族会も開催し、意見交換を通して運営に反映させていると共に、家族間の良好な関係づくりにも努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の方々やボランティアとの交流があり、施設行事等に参加・協力をしていただいている。また、夏祭り等の地域の行事に参加すると共に、小学校の運動会や卒業式へも参加しており地域交流の促進を図っている。

2. 調査報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	安心して快適な生活をおくことを主眼として独自の理念をつくりあげており、専門的な知識と技術により適切な支援提供に努めている。	○	独自の理念に地域密着型サービスとしての役割を目指した内容を付加し、更なる地域生活の継続支援と地域との関係性の強化を目指していただくことを期待します。
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内に理念が掲示されていると共に、定期的な会議等で随時理念の確認及び共有化を図っている。また、各職員がネームホルダーに理念を携帯し、常に理念を意識したサービス提供がなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方々やボランティアとの交流があり、施設行事等に参加・協力をしていただいている。また、夏祭り等の地域の行事に参加すると共に、小学校の運動会や卒業式へも参加しており地域交流の促進を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価票については管理者が作成しており、他の職員への周知はなされていない。しかし、前回までの評価結果については周知されており、評価の意義を理解していると共に、業務に対する気付きを大切にしている。今後の評価結果を活かして更なるサービスの質の向上につなげたいと考えている。	○	各職員の気付きを大切にしながら職員全員で自己評価票の作成を行い、更なる運営及びサービスの向上に努めていただくことを期待します。
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員・地域の代表者・入居者・家族等を構成員として2か月に1回運営推進会議を行っている。会議では施設の現況報告や活動報告等を行い、施設理解の促進を図っている。また、積極的に意見交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の地域包括支援センターと連携を図り、施設運営に関する相談をしている。また、研修を依頼・実施し、質の向上に努めている。その他、社会福祉協議会の視察研修の受け入れ等を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個人の生活の様子については定期的に写真や文書で報告されており、面会時にも家族に伝えられている。また、生活状況に変化があった場合は、随時電話連絡を行っている。受診結果や特別な状況については、状況・対応・対策が文書で細かく報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口を設置していると共に、面会時に直接要望等を確認している。苦情はほとんどないが、意見・要望に対しては職員全員で検討し、概要・内容・今後の対応を文書にまとめて家族に報告している。運営推進会議開催と同時に家族会も開催し、意見交換を通して運営に反映させていると共に、家族間の良好な関係づくりにも努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在、職員は定着しており、安定した支援がなされている。また、管理者は職員との信頼関係構築に努めており、人材の安定化を図っている。新人職員については、慣れた職員と一緒に業務を行い入居者との馴染みの関係を築いている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修に参加しており、職員の質の向上に努めている。また、会議において外部研修の内容を職員全員に周知し、情報の共有化を図っている。ヒヤリハットや事故事例の検討会を含めた内部研修も定期的に行っており、職員の質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の事業者連絡会に定期的に参加しており、情報交換や勉強会を行っている。また、相互の優れた部分を取り入れながらサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の面接や体験入居を通して、本人及び家族の希望や思いを受け止めている。また、入居前の日常生活の見学を通して、入居者の生活状況の把握にも努めている。入居後は生活に慣れるまで本人のペースを主体とした支援を行っており、個々の希望にも応じながら馴染みの関係を築いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の意向をしっかり受けとめながら生活活動に参加していただき、いきいきとした生活がおくれるように支援している。共同生活において入居者から教えられることも多く、生活習慣や人間性を見習い、相互に支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面接や日々の対応で本人や家族の意向を把握している。また、日々の気づきや職員間の情報交換を通して本人の意向に沿った支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者・計画作成担当者・担当職員を中心に情報収集をしっかり行った上で職員全員でカンファレンスを行い、本人本位の介護計画を作成している。また、家族会等の参加時に家族を含めたカンファレンスを行い、家族の了承も得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当職員が経過をしっかり記録した上で3か月に1回評価を行い、職員全員で計画の見直しを行っている。入居者の状況が変化した場合は家族と相談しながらその都度見直しを行い、適切な支援ができるようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じ、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院時におけるお見舞いや必要な支援を行っている。本人の希望に応じて短時間の一時帰宅の付き添い支援も行っている。月に2回、理容師による訪問理容が実施されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院を中心として受診支援を行っている。また、希望のかかりつけ医がある場合は柔軟に支援している。かかりつけ医や家族との連携を大切にしており、看護師とも協力しながら状況変化に応じた対応がとられている。また、医療連携体制が構築されており、週1回看護師による医療相談や健康管理がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する方針が明示された同意書があり、家族の了承を得ている。医師や家族と相談しながら施設としてできる最大限の対応を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の書類等については鍵付の書庫で保管し個人情報の保護を図っている。日常的にも入居者のプライバシーに配慮した言葉かけに注意して相互の信頼関係を大切にしている。定期的な接遇研修を実施し、対応の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間以外は日課に取り決めが無く、本人のペースで自由に過ごしてもらっている。本人の希望に応じて調理や掃除等の生活活動にも参加してもらっていると共に、散歩・買物・ドライブ等の外出支援を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立づくりや調理・盛り付け・後片付けを職員と共同で行っていると共に、同じテーブルで食事を囲み、楽しく食事ができるような雰囲気づくりを大切にしている。月に1回外食会を実施しており、食に対する楽しみを広げている。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日実施できる体制になっており、本人の希望や状況に応じて適切な入浴支援を行っている。また、入浴時間も柔軟に対応している。浴室にリフトが設置されており、身体状況に応じた入浴支援もなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の生活歴や特技を活かして家事・畑仕事・作品作り等を共同で行っている。日々の散歩や定期的な行事の実施により、心身の活性化を図っている。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的に外出会や外食会を実施しており入居者と職員で楽しみを共有している。また、年に1回家族同伴の外出会も実施されている。天候や体調に応じて散歩も日々実施しており、入居者の気分転換を図っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はチャイムを活用しながら鍵をかけずに支援している。外に出た場合でも無理に引き止めず、見守りや言葉かけにより柔軟に対応している。居室に鍵が設置されているが、ほとんど使用されていない。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防署の協力のもと避難訓練を定期的 to 実施している。緊急時の対応については心肺蘇生等の訓練も実施されている。日頃の地域交流により、災害時における地域の方々との協力体制も構築されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の好みや能力に合わせて適切な食事提供を行っている。食事や水分摂取の記録もしっかり行っており、摂取量が少ない場合は、本人が食べたいものを中心に必要な栄養を補給している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光も良く全面バリアフリーでゆったりとした空間づくりがなされている。また、周囲の見晴らしも良く、入居者の気分転換にもつながっている。共用部分には和室スペース・ソファ・ウッドデッキ等のくつろぎの空間があり、居心地よく過ごせるように配慮されている。敷地内に畑があり、季節の野菜等を協同で栽培している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望により自由に馴染みのものを持ち込むことが可能であり、居心地よく生活が出来るように配慮されている。また、各居室にナースコールが設置されており、安心して生活ができるようになっている。居室の入口には写真入の表札があり、誰でも分かりやすいように工夫がなされている。全居室にエアコンが設置してあり空調も適切に行われている。		